

## 新規収蔵資料

# 小田原橋 親柱

おだわらばし おやばしら

小田原橋は、東京都中央区を流れる築地川の東支川と南支川が交差する地点に架かっていたコンクリート製のアーチ橋でした。橋の東詰一帯は、江戸時代から昭和7年(1932)まで「南小田原町」、同41年まで「小田原町」と呼ばれ、橋の名前はこれに由来しています。



### \* 小田原橋基礎データ

橋名	小田原橋(おだわらばし)
位置	東京都中央区築地6丁目14番地・26番地
形式	RC(鉄筋コンクリート)充腹式上路アーチ橋
橋長	24.5m
幅員	15.0m
着工	昭和4年(1929) 2月 8日
竣工	昭和4年(1929)10月16日
設置	東京市

## ○江戸・東京の小田原町

近世江戸の城下には、二つの小田原町が存在しました。初めに成立したのが日本橋北詰の「小田原町」で、町の名は小田原の石工善左衛門が当地を石揚場(舟で運んだ石材を荷揚げする所)として拝領したことが起源だと伝えています。善左衛門は小田原城下の大窪(現小田原市板橋)に住んだ石工で、戦国時代には北条領国の石切棟梁に任命され、配下の職人等を指揮して活躍しました。天正18年(1590)の北条氏滅亡後は、その技量を徳川家康に認められ、慶長年間(1596-1615)のはじめ頃から、本格化する江戸城の普請や城下の町割りに用いる大量の石材の運搬や加工に従事しました。

これらの石材は、小田原から伊豆半島にかけての広範囲で採石され、江戸日本橋の「小田原町」は各地から船で搬送された石材の陸揚げ場として賑わい、善左衛門をはじめ、配下の石工が数多く居住したものと考えられます。やがて「小田原町」に魚市場(日本橋魚河岸)が開かれ、石揚げ場は築地に移転して「南小田原町」と称したため、日本橋北詰の「小田原町」は「本小田原町」と改称しました。

一方の「南小田原町」の成立については、先述した石工の移住に拠るとの説のほか、寛文4年(1664)に日本橋「小田原町」の魚問屋等が江戸幕府の許可を得て開発したとも伝え、「南小田原町」にも多くの魚商が移住し、「本小田原町」一帯の日本橋魚河岸に対抗しました。関東大震災後、日本橋魚河岸は奇しくも「南小田原町」の西隣に移転して現在の東京都中央卸売市場築地市場となりますが、その敷地はかつて小田原藩主稲葉家の中屋敷がおかれた場所で、小田原橋があった一帯は、小田原との所縁が極めて深い地域でした。

江戸の城下には「小田原町」の他にも、小田原城下の「青物町」や「万町」の町人が開いたと伝える「青物町」・「万町」(いずれも中央区)が存在し、江戸・東京に残された小田原ゆかりの町名は、近世初頭における江戸の開発に、小田原の先人が深く関わっていたことを伝えていました。しかし、昭和3年(1928)に「青物町」「万町」、同7年「本小田原町」が消え、代わって「小田原町」と呼ばれていた旧南小田原町一帯も築地に編入されて町名が消えたため、築地に残された小田原橋は、こうした歴史を偲ぶよすがとなっていました。



■江戸城の石垣石に用いる石材を切出し、舟で搬送する石工たち（「石引図屏風」小田原市郷土文化館蔵）  
 ※「石引図屏風」は、国立歴史民俗博物館の企画展示「時代を作った技」で公開します。（会期：2013 7/2～9/1）

## ○築地の小田原橋

小田原橋が最初に架橋された時期は明らかではありませんが、延宝7年(1679)の『江戸方角安見図鑑(えどほうかくあんけんずかん)』には、橋名の記載は無いものの、現在と同じ位置に橋が描かれており、延宝元年(1744)の『寛保沽券図(かんぼうこけんず)』に「南小田原町橋」と記されています。また、江戸町方の名主が残したとされる備忘録『重宝録(ちょうほうろく)』によると、天保13年(1842)1月の調べでは、橋の長さ11間(約20m)、幅3間(約5.5m)とあります。

橋の西詰には築地の本願寺があり、南小田原町から本願寺の総門に通じる橋であったので、「本願寺橋」や「門跡橋」とも呼ばれ、本来は築地川南支川(築地堀)に沿って今より少し上流に位置したとも伝えられ、幾度かの架け替えを経て今日にいたったようです。

大正12年(1923)9月に発生した関東大震災の復興過程で、当時の東京市が昭和4年(1929)10月に架橋したものが最後の小田原橋で、この度収蔵した親柱はその一部です。

築地川は、昭和35年5月に首都高速道路を建設するために埋めたてが許可され、橋の上流側は昭和54年、下流側は同58年から埋め立てが始まり、平成10年(1998)5月に東支川の築地市場に面した箇所も埋め立てられました。

こうした中、橋としての機能を失っていた小田原橋は、築地場外地区の交通環境の改善のため、平成25年に撤去されました。

小田原市では現存していた小田原橋の親柱3本の内の1本を特別に譲り受け、小田原と江戸の関係を伝える資料として保存公開するため、郷土文化館の前庭に移設しました。



■小田原橋周辺(昭和34年撮影)



■小田原橋(昭和60年撮影)

写真提供：中央区立京橋図書館

小田原橋親柱  
 おだわらばし かなばし

小田原市郷土文化館

〒250-0014 小田原市城内7番8号 TEL0465-23-1377